

「みえる ひろがる かすがきた」通信

春日北をかたるかい(会) 元気になる会議でまちづくり力UP

Vol.3

2021.3.9実施

公民館オリジナル「松ぼっくりタワーゲーム」でアイスブレイク！

前回に続きアイスブレイクを進行するのは公民館の成富主事。今回は、手作りの松ぼっくり人形を積み上げて高さを競う「松ぼっくりタワーゲーム」を行いました。戦略会議をして取り組むチーム、松ぼっくりを上手に咬ませながら絶妙なバランスで積み上げるチーム、成富さんのヒントを聞いて「その方法もあったか！」と土台づくりから再チャレンジするチーム、それぞれに思い思いのタワーが完成しました。



春日北公民館 成富主事



途中上手いかなかったり、崩れたりしながらも、色々な形、やり方で最後まで諦めずに取り組んでくださった姿がまちづくりに通じるなと思いました。アイスブレイクは講座に合わせて意図があって行われているんですね。



講師：福成 有美さん
(株式会社アテンド)

これまでとこれから
実は、今回の講座、元々は1月22日に開催をする予定でした。ですが、新型コロナウイルスの感染拡大(第6波)を受け、2度、延期をすることとなりました。そうして前回の講座から空くこと3か月、当初予定していた「講座の参加者を増やして関わる人を広げる」という内容から、「人は増やさず今までのメンバーで、今後、より多くの人に関わっていただくための仕掛けを考え学ぶ」という内容に変更して開催を決定。「ぐっとしゃがんで、コロナの状況が良くなったらポンと飛べるように、ポジティブな方向転換をしました！」と福成さんから経緯をお話いただきました。

学んでみようファシリテーター

ファシリテーションとは、人々の活動が容易にできるよう支援し、うまく事が運ぶように舵取りすることです。福成さんは「この“容易にする”、つまり“〇〇しやすくする”人がファシリテーターです。」とし、ファシリテーターがいる会議と、いない会議をイラストを使って説明されました。そのイラストから見てきたファシリテーターの役割は大きく3つ。「皆が言えるようにする(言える化)、聴けるようにする(聴ける化)、プロセスを見えるようにする(見える化)」です。地域には多様な人がいます。「考え方は違って当然。だからこそ、話し合って、聴き合って、対話する。そうすることで、同じ目標に向かって協力し合える関係ができるし、もしかすると話し合いの参加者が参画者になって、そこからまたより多くの協力を得られるようになるかもしれません。」と福成さん。だんだんとファシリテーターの大切さがわかり、皆さんの頷きが大きくなっていました。



チェックしてみよう！
「会議25のチェックシート」
□時間通りに始まり、終わる？
□目的(ゴール)を文字で共有している？
□意見が出やすい席の配置の工夫は？
□議論と決定はある？
など25項目について、参加したことがある会議に照らしてチェックしました。

みんなが、まちが、元気になる会議の作り方

では、言える化、聴ける化、見える化ってどうすればいいの？ということで、後半は具体的な事例やワークを通して「元気になる会議の作り方」を考えていきました。



付箋を使うと、声の大きい人だけでなく、全ての人が意見を出しやすくなる！
(言える化)
より深く聴くための質問「～という？」「どんな感じ？」
(聴ける化)
ホワイトボードが議事録に！
(見える化)



第1回、第2回の講座を通して、団体を超えて交流を行いました。そして、春日北の強み、課題が見えてきました。この課題を解決するためには地域の人の協力が必要です。最後に福成さんから「もっと自発的に、皆が意見を言える、聴ける、考えることができれば、皆で色々なことを大切にしたり、必要に合わせて変えたりすることができるようになります。皆が元気になる会議、ワクワクするまちづくりで“なるほどね”と共感出来たら、一人ひとりの行動が変わっていくかもしれません。皆で分かち合える春日北を実現してください。」とエールを贈られました。

参加者の声 (アンケートより)

- *「ファシリテーターの役割」から自分のやることが見えてきた。
- *会議だけでなく生き方にも活用できそう。
- *イベントが目的ではない。そのプロセスの中で人と人のふれあいが良い結果を生む。
- *具体的行動に同じ目標を持って動くための話し合いの基本の考え方がよかった。
- *全員参加の会議の方法。意見を聞くこと。
- *言える、聴ける、見えるでつないでいく。
- *最初の松ぼっくりでの暖かい雰囲気づくり、工夫いただきありがとうございました。
- *ファシリテーションが理解できた。

